

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

東米良地区活性化 キャンプ事業

特定非営利活動法人東米良創生会

西都市

商工観光課、市民課

事業名：東米良地区活性化キャンプ事業



「尾八重ブルー」この景色に魅了され、私たちは動き出しました。

1. 【団体の概要】

平成30年3月より東米良地区地域支援事業準備室を設立し、東米良地区の課題の抽出をし、東米良創生プロジェクト案を提案。その後さまざまな個人や団体等と協議を重ね、「1000年続く村 東米良創生プロジェクト 循環型山村づくり」を掲げ、住民500人を目指し、課題解決をするための実行部隊として、地域在住の有志および東米良地区出身者、支援者を含む理事15名で、令和2年3月に任意団体として設立後、令和2年8月にNPO法人となり現在に至る。

2. 【事業の目的、ねらい】

東米良地区の既存施設や地域資源を活かして、昨今注目されているキャンプを実施できるように様々な団体・企業と連携協力を行いながら環境を整備し、当事業を通して交流人口の増加を目指し、東米良の魅力を知ってもらうことで定住人口増へ繋げることを目的とする。

3. 【活動内容】

- ① 日時：令和3年4月25日～令和4年1月25日
- ② 場所：西都市東米良尾八重地区「米良の里眺峰館」

③ 事業スタッフ

事業部長 1名・副部長 1名・スタッフ 5名・事務局 3名

④ 実施内容

- ・キャンプサイト区画整理
- ・キャンプサイト防災対策用 散水栓整備
- ・キャンプ用品レンタル備品準備
- ・キャンプ場利用規約および予約受付緊急時対応システムづくり
- ・地域資源活用 山土の利用 地元木材の利用

⑤ 実施手段

当法人と地区代表者を含む東米良地域づくり協議会の東部実行委員会や地元有志で行っている尾八重活性化プロジェクト会議にてキャンプ事業について検討し、具体的な内容（利用料・利用の決まり、運用方法など）を決定し、運営を東米良創生会が実施することの承諾を得て実施。

【事前協議】 令和3年7月24日（土）11名

【第1回 尾八重地区活性化プロジェクト会議】

令和3年9月11日（土）米良の郷眺峰館 緊急ヘリポート説明 西都市危機管理課・西都消防本部同席 16名

【第2回 尾八重地区活性化プロジェクト会議】

令和3年10月9日（土）尾八重公民館 13名

【第3回 尾八重地区活性化プロジェクト会議】

令和3年11月13日（土）東米良支所 7名

【第4回 尾八重地区活性化プロジェクト会議】

令和3年12月4日（土）岩井谷公民館 7名

【東部実行員会】 令和4年1月20日（木）東米良支所 13名

【整備活動前準備】 令和3年12月～令和4年1月14日

関係者で全体作業に向けての準備を実施 延べ人数 24名

≪内容≫

材料の準備／道具準備／枕木の穴あけ作業／側溝内岩撤去

【尾八重高原星空キャンプ場整備活動】



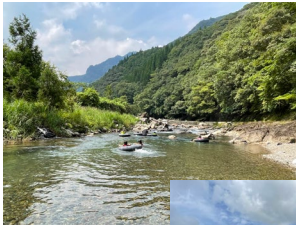
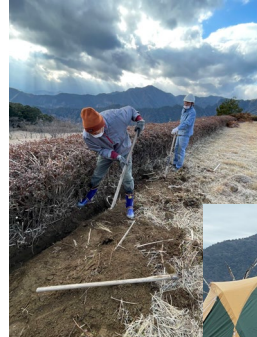
令和4年1月15日(土)
9時～15時 30名
(内訳:西都市役所・西都消防本部職員5名
/東米良創生会8名/地元7名
/その他支援者 10名)

《内容》

サイト区画枕木の埋設
ヘリポート区分枕木設置
敷地内側溝整備
駐車場整備
サイト内地盤改良整備

【上記整備活動後の残務活動】

令和4年1月16日～22日 延べ12名



【東米良自然体験キャンプ】

日程 令和3年7月31日～8月1日

場所 東米良仁の里

参加者 大人8名 子ども9名 計17名

ボランティアスタッフ 5名

西都市の小中学校に案内をして、東米良の自然を体験してもらった

テント設営体験・川あそび・火おこし体験

【西都市との協働】

キャンプ場整備活動時のボランティア参加

西都市の広報 お知らせ 2022.1.15号 掲載

広報 さいと 2022 2月号 掲載

広報 さいと 3月号表紙(予定)

広報 さいと 4月号特集ページ(予定)

⑥ 対象者

【会議および委員会】 参加者内訳

地域住民/地域づくり協議会委員

/西都市関係課職員/

東米良創生会スタッフ・役員ほか

【ボランティア】

地域住民/地域づくり協議会委員/西都市職員/

東米良創生会スタッフ・役員スタッフ/企業関連支援者

※ 利用者はキャンプ希望者を予定していたがヘリポートの住民説明やコロナ感染予防等の対応から、事業実施が遅れ、令和4年2月1



日プレオープンとなったため、募集はしているが利用開始はまだである。

4.【事業の成果、効果】

この事業で最も大きいと感じた成果は、地元の方々に複数の協議を行ったことや西都市と協働で事業展開をすることにより、地域の団結力が芽生え、他地区からの来訪者を皆でお迎えする雰囲気が出来たことである。予定にはなかったが、協議の中で緊急時ヘリポートの存在を地域住民へ周知することが出来たのも大きい。

西都市のキャンプ場（現在西都市内唯一）として、今後も多くの方に楽しんで頂ける場所を作ることが出来たことと、尾八重地区の名所が一つ増えたこと。

当法人においては、このキャンプ場整備に関わり、尾八重地区に住みながら仕事をしたいという申し込みがあり、現在、住まいの準備と雇用の準備をしていることから、新たな事業展開が可能になりそうであることである。また、キャンプ場において地域資源である木材の利用として薪の販路が増えたことも大きい。

5.【まとめ】

西都市の広報のお知らせに掲載したところ、すでに多数の申込みがある。利用者にアンケートを実施するので、整備したキャンプ場への意見を集約し今後の運営に活かしていく。

購入したキャンプ用品は、今後は体験活動での利用やキャンプ用具のレンタル希望者にレンタルを実施しキャンプ場をより利用しやすく提案することが可能となる。東米良地区には今後まだ複数のキャンプ場整備の予定地があるので、この尾八重地区のキャンプ場整備の経験をもとに、今後も地域住民や支援者、西都市の協力や支援を頂きながら地域振興を目指し、交流人口を増やし、東米良地区における移住定住および雇用の創出を推進していく。 事業への参加人数 145名

